














テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容	
同和問題		あなたに伝えたいこと	兵庫県 2014年	36分	<p>この作品のテーマは、「インターネット時代における同和問題」です。同和問題の解決を図るため、30年以上にわたって地域改善対策が行われてきました。その結果、生活環境などハードの面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残されています。</p> <p>また、時代の経過とともに、同和問題についての正しい理解を得る機会が少なくなっています。そんな中、この作品は同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする人権問題の解決につながることを描きます。</p>
		日本国憲法と部落差別	東映 2017年	17分	<p>このDVDでは、どのような経過を経て憲法が制定されたのかを検証し、その過程で戦後初の男女同権による民主選挙によって選出された国会議員たちが、主体的に憲法制定に取り組んだことを明らかにしました。</p> <p>さらに、平和の基礎となる人権尊重の精神がどのようにして憲法に書き込まれたか、とくに第14条の条文をめぐる議論に注目し、ここに「部落差別の禁止」が明確に記載されたことも明らかにしました。だれひとりとして「差別されない」と明記された「日本国憲法」こそが、真の「解放令」であることを伝え、「差別を黙って見過ごしてはならない」ことを、いま改めて憲法の意義とともに問いかけます。</p>
女性の人権問題		配偶者からの暴力根絶をめぐって ～配偶者暴力防止法のしくみ～	内閣府 2008年	35分	<p>配偶者からの暴力は、犯罪となる行為も含む重大な人権侵害です。配偶者からの暴力は、あなたの身近なところでおきています。このDVDでは、配偶者からの暴力の根絶をめざして、「配偶者防止法」のしくみ等についてわかりやすく紹介しています。</p>




テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容	
子どもの人権問題		ボクとガク あの夏のものごたがり	北九州市 2010年	42分	<p>「子どもの人権」といえば「与えること」「守ること」と思われがちですが、子どもは「いや!」と拒否することも「自分です」と主張することもできる存在です。権利の主体として社会に参加し、意見を表明する権利があります。</p> <p>そうした子どもの人権と、地域ではぐくむ人権文化、また次代に受け継ぐものとして「戦争と平和」について描かれています。この映画を見た方々に、見落としがちの人権、忘れがちな意識について考えていただきたいです。</p>
		クリームパン	兵庫県 2010年	36分	<p>虐待やいじめなど、人を傷つけ、いのちを奪うのも「人」ならば、傷つき、死に瀕している人のいのちを救うのもまた「人」です。人と人がふれあい、心を通わせることで救えるいのちがあります。</p> <p>子どもへの虐待や若者の自殺など、社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、このドラマを見た方々に、今一度「いのち」について自分の問題として考えていただきたいです。</p>
高齢者の人権問題		認知症と向き合う	東映 2017年	30分	<p>高齢化の進展に伴い、認知症の人が、今後更に増加することが予測されています。一方で、多くの人たちが認知症に対して知識不足であり、偏見を抱いているのではないのでしょうか？確かに、認知症の人の気持ちや行動の理由を理解するのは大変なことです。しかし、認知症の人の立場に立てば、どんな行動でも本人なりの理由や思いがあります。健康な人の常識で判断することが、介護する家族と認知症の人の両方を苦しめてしまいます。大切なのは、認知症の人が築いている世界観を理解し、尊重することなのです。</p> <p>この作品は認知症によくみられる症状、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さを描いたドラマです。認知症について正しい知識を持ち、認知症の人の視点に立って認知症への理解を深めることを目的に制作されています。</p>



テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容	
障がいのある人の人権		今日もよか天気たい	福岡県 2007年	35分	ある日、京子とたまたま同じバスに乗り合わせた乗客は、京子の存在や京子のとる行動によって、自分の心の中にある偏見や差別に気付いていきます。さらに、多くの人から支えられてきた京子自身もまた人の役に立つことで生きがいを見つけています。この物語は、視覚障がいのある一人の女性“京子”を通して、周りの人が「人権」の大切さに気付いていくストーリー展開になっています。
		秋桜の咲く日	北九州市 2013年	34分	「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人それぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。 この映画は、「目に見えにくい違い」の一つとして発達障がいを取りあげています。発達障がいのある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えています。
		風の匂い	兵庫県 2017年	34分	平成28年4月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。この法律では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。障害のある人は、社会の中にあるバリアによって行動の制限や不当な扱いを受けるなど、生活しづらい状況に置かれることがあります。このバリアは物理的な問題だけではなく、障害のある人への差別意識や知識不足からも生まれており、私たちが意識を変えて、「壁＝バリア」をなくしていかなければなりません。 この作品では、スーパーマーケットで働く青年2人の成長と職場での人間模様を通して、「合理的配慮」とは何か考えていきます。
ハンセン病患者等の人権		ハンセン病問題を理解する ～元患者と家族の思い～	法務省 2020年	34分	隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための作品です。

テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容
インターネットによる人権問題	 <p>ちょっと待って、ケータイ</p>	(財)日本視聴覚教育協会 2008年	30分	<p>ケータイ依存、個人情報の流出、コミュニティサイトの危険性、ネットいじめの4つの事例それぞれを子どもの目線と保護者の目線から6~7分のドラマ形式で構成し、解説を加えた映像資料となっており、子どもの携帯電話をめぐる問題にどのようにして対応すべきか、その解決方法について関係者の理解を深めることを目的に作成されています。</p>
	 <p>あの空の向こうに</p>	兵庫県 2009年	38分	<p>普段何気なく使っているケータイやインターネットがある日突然「凶器」に変わってしまいます。ケータイやインターネットによる人権侵害は、いつ、だれの身に起きても不思議ではない深刻な問題です。</p> <p>文明の利器を凶器に変えるのも、傷ついた心を癒すのも「人」です。本当の意味での心のつながりとはどういうことか改めて見つめ直し、お互いに「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションを図ることの大切さと家庭の果たす役割について考えていただきたい。</p>
性的少数者の人権問題	 <p>誰もがその人らしく -LGBT-</p>	東映 2017年	20分	<p>LGBTの人たちに対する社会の偏見はまだまだ強く、存在していてもなかなか見えない、その存在を見だしにくいのが現状です。しかし、各種の統計からも明らかなように、LGBTの人たちは確かに存在し偏見や差別に苦しんでいます。</p> <p>この問題は他人事ではなく、タイトルにあるように、誰もが自分らしく生きることを考えていくうえで、あまねく全ての人々に関わりのある問題だと思います。LGBTの人を別のカテゴリーの人と見ずに、たまたまその位置にいる人々というふうに着目できれば、LGBTの人たちへの見方もひろがり、誰もが生きやすい社会をつくる一歩になるのではないのでしょうか。</p>
	 <p>パパは女子高生だった! ~前田 良~</p>	フルーク映像 2019年	28分	<p>家族は、四人。僕、妻、二人の子どもたちの四大家族だ。どこにでもいる、家族。ただひとつ。たったひとつだけ、違ったことといえば、女の子として生まれたということだった。「性別変更した夫を父親として認める」という画期的な決定を最高裁で手にした家族の物語。</p>

テーマ	タイトル		制作年	上映時間	内容
性的少数者の 人権問題		映像で学ぶジェンダー入門 男らしさ/女らしさ -社会を覆うジェンダー・ ステレオタイプ-	株式会社サン・ エデュケーショナル 2021年	40分	<p>男らしさ、女らしさといった考え方は人の無意識に存在します。そうした考え方はしばしばステレオタイプ化し、多くの弊害をもたらします。「スイーツ男子」といった言葉の裏にどのような性別の固定観念が潜んでいるのか、また、教育の場においてそうした固定観念はどのような影響をもたらしているのか、ジェンダー・ステレオタイプを取り巻く多くの事例について考えます。</p> <p>フェミニズムやバックラッシュといったジェンダーを考える上で重要な事柄についても学びながら、様々な事例から身近なところにひそむ性別役割規範について考え、現代の社会における課題について考えます。</p>
北朝鮮 権侵害当局による 人権問題		一文部科学省選定作品 - 北朝鮮による 日本人拉致問題啓発ビ デオ めぐみ	政府 拉致問題対策 本部 2008年	30分	<p>拉致被害者横田めぐみさんが生まれてから北朝鮮に拉致されるまでと、拉致された娘の救出を国内外に懸命に訴え続ける横田御夫妻の活動を描いたドキュメンタリーアニメ。</p>
人権問題全般		ほんとの空	兵庫県 2012年	36分	<p>高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。</p> <p>だれもが誤解や偏見に気づき、人と深く向き合うこと、他者の気持ちをわがこととして思う事。全ての人権課題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげていただきたいです。</p>


テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容	
人権問題全般		<p>あなたの偏見、 わたしの差別 ～人権に気づく旅～</p>	<p>東映 2012年</p>	<p>30分</p>	<p>第1章 暴力・デートDV・ジェンダー 第2章 自死をめぐる 第3章 ホームレス問題 第4章 ハンセン病</p> <p>人権という言葉はよく耳にしますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないのでしょうか。しかし、少し視野を広げてみれば、身の回りには様々な人権に関する問題や課題があるのです。</p> <p>本作では、人権問題に興味を持つ若者4人が集まり、彼らが気づき、体験し、感じたことは、まさに人権に向き合う旅といえます。この4人の中で深まっていく議論とそれぞれの意見は人権問題を考えるための確かな手がかりになるはずです。</p>
		<p>桃香の自由帳</p>	<p>兵庫県 2011年</p>	<p>36分</p>	<p>核家族化や都市化が進む中、人々の地域などへの意識が大きく変わり、互いにふれあい、支えあうことが少なくなっています。そのため、同じ地域に暮らしていても、名前さえ知らなかったり、相手のことを誤解して排除したりするなど、私たちは気づかないうちに「人とのつながり」を自ら絶ってしまうことがあります。</p> <p>このドラマでは、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てています。日常の何気ない言動をふりかえることで、現代を生きる私たちが見失いつつある、人と人とが寄り添い、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。</p>
		<p>親愛なる、あなたへ</p>	<p>兵庫県 2008年</p>	<p>37分</p>	<p>現在、都市化や核家族化が進行し、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。近隣同士であっても互いに無関心、無理解でいることにより、様々な人権問題が起きています。</p> <p>本来、地域の主人公はそこに暮らすすべての人たちであるはずですが、しかし、実際には、自分も「まちづくり」の主人公であることを忘れ、他人任せになっています。</p> <p>地域に関わるすべての人が、同じ社会の構成員として、よりよい暮らしづくりを実施する地域社会を創造していくために、自分の能力や経験を活かすなど、主体的な生き方について考えていただきたいです。</p>


テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容
人権問題全般	 <p data-bbox="490 284 734 347">探梅 一春、遠からじー</p>	北九州市 2010年	40分	<p>人権課題の多くは、人が排除する意識から生まれ、人が孤立することで深刻化していきます。しかし、「困ったときはお互い様」。その気持ちが人を温かく結び付け、助け合う社会へと導きます。</p> <p>私達は、「排除」や「孤立」を生み出す社会ではなく、互いに違いを認め、支え合い、あらゆる人を包み込む社会をつくっていきたいと考えます。</p> <p>この映画では、北九州市が展開する『いのちをつなぐネットワーク』を取り上げながら、「包み込む社会」に焦点を当ててみました。人と人とのつながりや助け合いの根底となる人権尊重について考えていただければ幸いです。</p>
	 <p data-bbox="555 627 674 655">ヒーロー</p>	兵庫県 2013年	34分	<p>近年、社会から孤立する人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっている。家族や地域、職場でのつながり、つまりは血縁や地縁、社縁の希薄化によって引き起こされる問題である。こうした「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、何ができるのかを提起する。</p> <p>「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権課題に対し、傍観者としてではなく主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを考える。</p>
	 <p data-bbox="535 962 689 991">光射す空へ</p>	北九州市 2015年	32分	<p>2015年は、同和対策審議会答申が出されて50年。その間、国や地方自治体等で様々な取組が行われ、同和地区の生活環境は大きく改善されました。しかし、同和地区・被差別部落と呼ばれる地区の出身者や住民に対する差別は形を変えて根強く残っています。</p> <p>この映画では、大学生たちの悩みと学びを通して、「正しい知識と理解」「多様性の受容と尊重」の大切さを描いています。登場人物たちとともに、誰もが人権を尊重され自分らしく生きていける社会について考えていただければ幸いです。</p>

テーマ	タイトル	制作年	上映時間	内容
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人権問題全般</p>		<p style="text-align: center;">話せてよかった</p>	<p style="text-align: center;">東映 2020年</p>	<p style="text-align: center;">27分</p> <p>人がそれぞれに持っている価値観の違いを認めて、相手を大切に思うことは、「人権」の基本的な考え方です。そして「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。普段そのことを当たり前のよう理解しているつもりでも、夫婦や親子のような近く親しい関係性においては、相手を、そして自分自身を、一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。</p> <p>本作では、日常の中の思い込みによって生じる問題を描き、相互理解のためのコミュニケーションによって、その問題と向き合うことを提案します。家庭の人間関係は、私たちの人権意識を育む基盤です。そこからふりかえることで、組織や社会における意識も見つめ直すことができるのではないのでしょうか。自分の中にある思い込みに気づき、自分も相手も尊重する人間関係を築くために、職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">子ども障がい 同和問題</p>		<p style="text-align: center;">想像 imagination つながる ふみだす 一歩</p>	<p style="text-align: center;">東京都 2014年</p>	<p style="text-align: center;">34分</p> <p>いじめを受けている人 いじめをしている人      部落差別を受けている人 差別をしている人      発達障がいのある人 発達障がいのことを誤解している人      そして、それらの問題は「自分とは関係ない」と思っている人・・・      あなたは、どうですか？</p> <p>何気ない日常の中で、ほかの人の「心」を想像することをおろそかにしていませんか？      まず「想像」すること、相手のことを知ること、想うこと。      そこから人と人がつながる。      互いが人権を尊重し合って生きていくために、      一歩ふみだして行動する・・・</p> <p>あなたは imagination -イマジネーション-      できていますか？</p>



テーマ	タイトル		制作年	上映時間	内容
外国人の人権問題 インターネット 高齢者		わっかカフェへようこそ	東映 2016年	35分	<p>この映画は、3本立てになっています。1つ目はインターネットによる人権について、2つ目は高齢者の人権について、3つ目は外国人の人権についてです。どの作品も、高齢者の地域包括ケアを目指す「暮らしの保健室」や、高齢者の人生を傾聴して本にまとめる「聞き書き」の活動、おみこしを通して外国人との相互理解の推進が続いている「国際交流のおみこしを担ぐ会」など実例をもとに描かれています。</p> <p>「わっかカフェ」という町の路地にたたずむ小さなカフェを舞台に、「お茶でも飲んで、誰かと心の交流をすること」で、肩の力を抜きながら人権を考えることができる、そんな作品です。</p>
障がい者の人権問題 性自認や性的指向 外国人		シェアしてみたらわかったこと	東映 2020年	46分	<p>この映画は、4本立てになっています。1つ目は外国人に関する人権について、2つ目は性自認や性的指向に関する人権について、3つ目は外から見えにくい障がいのある人の人権、4つ目は災害時の人権についてです。</p> <p>主人公の藤木未来（21歳）は就職のため上京し、シェアハウスにやってきました。個性的な住民たちの出会い、そしてシェアハウスで巻き起こるできごとと共に、主人公は成長していきます。</p>
外国人の人権		サラーマット ～あなたの言葉で～	兵庫県 2020年	36分	<p>この作品の主人公・珠美は、新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」と捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考え方を持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。珠美とミランダの姿を通して外国人は「受け入れてあげる存在」でも「労働力」でもなく、助け合うことができる対等な仲間であること、SNSを傷つけるための道具としてではなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子を描きます。</p> <p>「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく。そんな多文化共生社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。</p>

テーマ	タイトル		制作年	上映時間	内容
超高齢化社会とひきこもり（8050問題）		カバンユラの夢	兵庫県 2020年	36分	<p>この作品は、二つの家族の視点で進行します。主人公の岸本麻帆はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口誠一とその両親は問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦悩しています。麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。</p> <p>急速に高齢化が進む中、8050問題は誰にでもおこりうることに認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。</p>
ヤングケアラー		夕焼け	兵庫県 2021年	35分	<p>今回の作品のテーマは、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」です。相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過ごされることが多いという問題があります。</p> <p>主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族であるのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。</p> <p>ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的とした、人権啓発ドラマです。</p>

テーマ	タイトル		制作年	上映時間	内容
ケア 障がい ー		あなたの笑顔がくれた もの ～周りから見えにくい 障がい・生きづらさ～	東映 2022年	37分	<p>「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。しかしながら、普段そのことを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。</p> <p>主人公の麻友子は、発達障がいである幼馴染の紗希、オストメイト（人工肛門保有者）の女子高生美織、祖母の介護をしている桃田、それぞれ周りからは見えにくい生きづらさを抱えている3人との関わり合いによって、自分の思い込みに気づき、変わる決意をします。外見で決めつけたり、「障がい者」や「ヤングケアラー」などカテゴリーで人を判断したりせず、一人一人が考えや感じ方も違う人間であるということを理解して向き合うことの大切さをこのドラマを通して学んでいくことができます。職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。</p>